

伝産男子。伝産女子。

～大阪錫器～

10年後は伝統工芸士を目指し、日々技術向上に勤んでいます



楯川さんが仕事をする上で大切にしていること

実際にお客様が使っている姿を想像して、自分ができる限りのことを商品に詰め込んでいます



大阪錫器株式会社 製造担当

楯川 智世さん 26歳

1993年兵庫県生まれ。子供の頃からものづくりが好きで、インダストリアルデザイナーを目指し、神戸芸術工科大学プロダクトデザイン学科へ入学。在学中に「錫」に出会い、恋に落ちる。2015年卒業と同時に大阪錫器株式会社へ入社。ストレス解消は「とにかく寝ること」。休日には花の絵を描くなど、日々技術向上につとめている。

製品に絵を描いたり漆を塗っています

どんな仕事をしていますか？

絵は酸に強いエナメル系の塗料で描いています。薪絵筆で描いていますが、絵の具で描くのと勝手が違うんです。

最初は全然できなくて、何回も何回も練習しました。

下絵なしでフリーハンドで描くので絵の位置を覚えないといけないところも難しさの一つです。



初めて絵を描いた茶托 (同モデル)



社内で使用している筆は他の様々な伝統的工芸品製造でも使われている超一流モデル (社長から教えてもらうまで知りませんでした) とても気さくで思いやりのある社長です。



運命の出会い？ 大学での製作体験授業

入社したきっかけを教えてください

大学での製作体験講習は、毎年開講されていましたが、3回生の時に参加するまで知りませんでした。構内の少し離れた場所にあるチラシをたまたま見たのがきっかけで、あのときに参加しなかったら今はここにいないと思います。

その体験講習で初めて「錫」という金属を知りました。体験では槌打(模様をつける作業)をしました。金属を叩くという作業は、普段することはないので楽しいなと思いました。金属なのにやわらかく、加工がしやすく「こんな金属あるんや」って驚きました！

製作体験をしていくうちにものづくりの面白さを感じて、製作体験講習後、社長に連絡して会社訪問をしました。その際は社長もころよく引き受けてくださいました。就活のときは他社も訪問しましたが、この会社で働きたいと強く思ったので、就職を決めました。

伝産男子。伝産女子。

～大阪錫器～

私が携わった製品が各国首脳へ贈られました

仕事上でうれしかったことは？

入社前は工場の中で作るだけと思っていましたが、入社して1年も経たない時に、百貨店での実演制作で売り場に立たせてもらいました。そのときに自社の商品が売れているところを見られたことがとてもうれしかったです。

催事で売り場に立たせてもらうと、お客さんの声をきく機会になりますので、とても貴重な機会となります。

初めて実演制作をしたタンブラーは今でも家で使っています。

また、G20大阪サミット2019で、各国首脳への記念品として錫の茶壺が贈呈されたのですが、その蓋に絵を描く担当をさせてもらったことに誇りを持っています！



記念品として贈呈された茶壺イブシ(同モデル)



ぜひ弊社商品で飲み比べをしてください。

錫の魅力って？

作り手側としては、やわらかく、加工がしやすい点です。使う側としては、飲み比べをしてみると違いがわかります。コーヒーやカルピス、ジュースで飲み比べをしてみました。角がとれ、のどろろが柔らかくなるんです。

私はお酒があまり得意ではないんですが、錫の器に入れると日本酒ものめるようになります。社長によると安価な日本酒でも違いが分かるそうです。大阪浪華錫器については**弊社HP**もしくは**伝産協会HP**でも詳しく紹介しているので、ぜひご覧ください。



伝産協会内
大阪錫器紹介ページ

ものづくりは楽しい！楽しいからできる！

伝産職人を目指す方へのメッセージを

伝統的工芸品に関わる仕事に就くなんて夢にも思っていなかったです。もともとものづくりが好きで、伝統的工芸品のことには知っていましたが、深く知る事はありませんでした。錫器製造の現場に入って世界が広がりました。作業がうまくいかなくて落ち込んだりすることもありますが、ものづくりが楽しいので、続けられています。



大阪錫器株式会社

【住所】大阪府大阪市東住吉区田辺 6 - 6 - 1 5

【TEL】06-6628-6731 【FAX】06-6628-6735

【代表取締役】今井 達昌

【創業】1943年 【従業員数】32名 【自社HP】<http://www.osakasuzuki.co.jp/>

【会社概要】

経済産業大臣指定の伝統的工芸品である「大阪浪華錫器」の企画・製造・販売企業。古くから宮中の器や神社の神具に使われ、江戸時代に一般に広まった錫器は、江戸時代中期に大阪に産地が形成された。しかし、現在は後継者不足で、他の伝統工芸産地と同様に規模が縮小している。同社は、組合事業として後継者育成に取り組み、若者を積極的に雇用するとともに、長い歴史に育まれた伝統の技術・精神を守りながらも、現在の生活のニーズに合った商品を世に出すことで、産地の未来を切り開いている。

